

No. 1146

新春の天皇ご一家

新春のやわらかい日射しにつつまれた皇居、散策を楽しまれる両陛下、昭和51年新春を迎えられた天皇陛下は今年で75才。昨年御多忙な一年でした。特に秋のアメリカ御訪問は思い出深いものになりました。天皇陛下はその時の印象を懐しみながら、やさしく語られました。紀宮様はディズニーランドのお話で大変興味を持たれた様子、熱心に聞き入っていました。礼宮様、紀宮様を囲んでますます健やかな天皇ご一家です。

えと造りの町

— 愛知県瀬戸 —

土の匂いが町をおおう。1,000年の歴史に支えられた焼き物の町、愛知県瀬戸市。手づくりの作業は、その多くが機械化された。瀬戸物の需要に追いつくためだ。昭和51年は童年。えとにちなんで竜の模様をあしらった扇の置物が大量に生産されていく。電気窯で土のかたまりは、陶磁器に姿を変える。しかし、今も土と炎に命をかける多くの陶工たちが瀬戸にアトリエを構える。

「陶寿堂」。増田重幸氏もその一人だ。増田氏は今、雲竜の像の制作にとりくむ。ひとつひとつの竜が生きてその姿をみせるまで造形は続く。

土の冷たさも忘れ時の過ぎるのも忘れて。竜は増田氏の手を借りてその姿をみせはじめる。

造形が終るまで一昼夜。そこには、土と炎にかける陶工の意地がある。

多くのすぐれた焼きものを世に送りつづけてきた伝統の歴史がここにある。